とある科学と魔術の不幸な弟

AKATUKI

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
とある科学と魔術の不幸な弟

【Ｎコード】
Ｎ４４１０Ｓ

【作者名】
ＡＫＡＴＵＫＩ

【あらすじ】
上条当麻の弟優麻を加えたとある魔術の禁書目録の再構成をしたもの内容は、原作沿いで頑張れればロシア編まで書きたいと思います。

プロローグ（前書き）

科学の話に上条当麻見たいなキャラ出したいなとおもたっらこんな感じになった。

プロローグ

「どこ行くの当麻お兄ちゃんと優麻」
「俺達は、学園都市に行くんだ美琴」
「やだよグス行かないでよ」ぽろぽろ
「ごめん」
「だったら私もいくよ」ぽろぽろ
「だめだ美鈴さんや旅掛さんが心配するだろ」
「だって離れたくないもん」ぽろぽろ
「大丈夫だってさよならじゃないからまた会えるから泣くな美琴」
「本当」ヒググス
「ああだって俺は、不可能を可能にする男だから」
「じゃあな美琴」
「うん優麻」
それが幼馴染と交わした約束だった

プロローグ（後書き）

頑張ります。

ファミレスでの出会い（前書き）

頑張ります。

ファミレスでの出会い

柵川中学2年D組

「優麻お昼だよ速く起きなさい」ゴツン

金髪の少女が話しかけている

「ティーナもう少し普通に起こしてくれよ」

ツンツン頭の少年が怒っている。

「後輩の二人が待ってるわよ」

ティーナスワンこの子は、今年学園都市に来た帰国子女だ

「お前が一番楽しみしてるんだろ」

上条優麻上条当麻の弟兄と違って左手に幻想創造とゆう能力をもっている。そしてこの能力は、左手で異能の力を持った人や異能事態に触れる触れられた人は、触れられてる間能力は、使えないそして触れた人の能力を使うことが出来るそしてその能力の解析や弱点などがわかるしかし能力を使えるが演算してるわけではないこれは、頭の中でイメージしてそれをイメージ道理に動かす触れた人の能力をスットク数は、４つまで異能事態に触れたときは、左手に能力が吸収されるそのときに解析やスットクも可能ひとつ違うのは、その能力を吐き出すことが出来るところ異能自体を体に取り込むのでそれを外に出すことが可能そしてストックした能力を合体させ新たな力を出すことが出来るそして優麻は、能力開発を受けているので絶対零度とゆう氷使い最強の能力を得たがみんなとの関係は、あまりよろしくないなぜなら大能力者になってしまったからだそして風紀委員になった。

「ティーナ速く行こうぜ」

「「「待て上条」」」

「何で上条さんみんなからにらまれてるんでしょう」

「後輩の女の子とお昼を一緒に食べるんだって」

「上条君一緒にお弁当食べよう」

クラスの女の子の一人がそういったそう上条優麻は、

「上条くんのためにお弁当作ったのもらってくれない」

「ああありがとう」ニコ

「／／／／」

「「「上条貴様」」」

むちゃくちゃもてるのだそして男子には、嫉妬をされ女子は、優麻が恥ずかしくて直視できないのだ

「不幸だ」ピキン

そして優麻は、いつもどうりみんなを凍らすのだ優麻の能力は、絶対零度レベル４なのだ

「行こうぜティーナ」

「うん」

柵川中学一年Ｄ組

「初春ぅぅ」

「キャー佐天さん何するんですか」バサ
スカートめくられた
「もう初春緊張してんの」

「だって佐天さん常盤台のお嬢様ですよ」

「初春もしかしてお嬢様に憧れてんの大体あたしは、無能力者だよ
きっと上から目線で見られるのよ大体すごい能力者であたしを対等
に見てくれんの上条さんだけだよ」

「佐天さん上条さん好きなんだもんねぇ」

「そそそんなことにゃいよ／／」

「あ上条さんだ」

「えええええ／／」

「よう佐天どうかしたのか顔真っ赤だぞ」

「優麻熱中症かもしれないよ」

「おうそうかじゃあ」ピキーン
優麻は、氷で周りを囲んだ

「おお涼しい」

「飯食おうぜ」

「それにしても風紀委員サボって常盤台のお嬢様に会いに行くのか
白井に何言われるかわかんねえぞ」

「大丈夫ですよ白井さんもきますから」

「あのやろう」

「私も常盤台の超電磁砲に会いたい優麻もいこうよ」

「白井がいるからあんま行きたくないんだよな」

「白井さんも上条さんラブだもんね」

「はー兄貴のフラグ体質が移ったのかな」

「まぁ気にせず行きましょう」

ファミレスにて

「ねぇ黒子いったい誰が来るのか教えてくれない」

「風紀委員の初春とその友人だと聞いていますが」

「まぁいいけど」

「白井さん来ましたよ」

「ああ初春おそいですよ」

「ちゃんと上条さん連れてきたんだから許してくれますよね」

「お兄様をどこにいらしゃいますの」

「そこに」

「ティーナあんまりくっつくなそして殺意の目を向けるな佐天」

「お兄様」

「ゲ白井いつから」

「そこのお方は、誰ですの」

「えっと帰国子女？」

「優麻何で疑問系か・の・じょでしょ」

「違うだろ大体おれは、好きな人がいるつっただろ」

「へーー死ね」ボン

ティーナは、発火能力レベル３

「まった能力使うな」しゅわ

水を優麻が出した優麻の絶対零度は、普通の人と違うのは、氷と水そして雪をあやつり水を氷にしたり氷から水などに出来る

「で常盤台のレールガンは、どこにいるの」

「ここにいるわよ私は、御坂美琴アンタは、」

「上条優麻だけど」

「御坂美琴」

「上条優麻」

「「あ」」

「私同姓同名の幼馴染がいるんだけど」

「俺もおんなじ」

「私の親の名前」

「美鈴さんに旅掛さん」

「優麻なの」ウルウル

「美琴なのか」肩に手を乗せる

「うん」ダキ

「そうか」頭ナデナデ

ファミレスでの出会い（後書き）

疲れた

ファミレスでの事件（前書き）

頑張ります。

ファミレスでの事件

「何ですのこの状況」

「幼馴染との感動の再会ですよ白井さん」

「それよりあなたのお連れさんたち止めなくていいんですの」

「ああティーナさん炎をしまってくださいさ佐天さんそのバット閉まってください」

その後

「美琴そろそろ離れないか」

「いや」

「いやと言われても」

「だめ」うるうる

「わかったよ今度時間があるときお前に付き合ってやるから今は、離れてくれそしてティーナそして佐天その殺意をこめた視線どうにかしてくれ」

テーブルに着き

「それでお姉さまとお兄様は、幼馴染と」

「そうですけどずいぶん仲良く見えますねぇ」

「そうかこいつは、昔からこんな感じに何回も抱きついてきたり一緒に寝たりお風呂に入ったり甘えんぼで泣き虫だったけど」

「優麻私は、泣き虫なんかじゃないよたしか何度も甘えたりしたことは、あったけどないたことなんて」

「じゃあもう膝枕やめるか」

「ええちょっとやめないでよグスお願いだから」うるうる

「ふにゃー」

「ああもうなんか泣虫だけどなんかかわいすぎて」なでなで

「いつもみているお姉さまが影も形ないですの」

「常盤台のお嬢様のイメージが」

「優麻いつまでその泣虫の相手してるの」

「離れてください」

「バットと炎をしまってください」

「優麻えへへ」ダキ

「ちょっとまった上条さんの理性が理性がぁぁぁぁーーー」

ズガーン

ファミレスでの事件（後書き）

眠い

クレープ屋までの道（前書き）

更新遅れました

クレープ屋までの道

「ええいもういい加減にしろ」チョップ

「いたー」

「あれここは、確か優麻にあってから記憶が」

「おーい美琴さん記憶が無いって」頭に手を乗せてる

「ちょっとなにすんのよ」

「あれいきなり素直な美琴からツンツンした美琴になった」ナデナデ

「ナデナデするな／／」

「やっといつものお姉さまに戻りましたの」

「優麻これからどこ行くの」

「これなんかどうだ」ガサ

クレープ屋
先着100名さまにゲコ太ストラッププレゼント

「いやだったらセブンミストに行きましょうよ」

「いやこの面子で行くとなるとさすがに恥ずかしいし」

「まあ女の子４人に男子１人は、きついですよね」

「それにゲコ太ストラップなら美琴は、大喜びだと思うぞ」

「このストラップが御坂さんの趣味ですか」

「そそそんなことないはよ別にこんなのいらないわよでもみんなが行きたいって言うのなら」

「じゃあ美琴やめるか」

「ええ」うるうる

「うそうそだからそんな顔するな」

「じゃあいこ」ぎゅ手を握る

「ちょ美琴引張るな」

「優麻をかってにつれてくな」

「まってください」

「上条さん速いです」

「お兄様とお姉さまが黒子は、黒子は、どうすればいいんですの」

「白井さん置いてかれますよ」

「待ってくださいましお姉さまお兄様」

クレープ屋までの道（後書き）

頑張ります

氷の翼と氷の剣（前書き）

更新遅れました。

氷の翼と氷の剣

「なぁ美琴そのひげ生えたカエルのどこがいいんだ」

「ひげ生えたカエルじゃなくてゲコ太てか別にすきでも何でもないんだからそうたまたまクレープについていてただけそうたまたま」

「ねぇ白井さんあそこの銀行だけ閉まってるの変じゃないんですか」

「初春気にしすぎじゃない」

「何言ってるんですか佐天さん風紀委員として当然ですよね白井さん」

「そうですはね」

「どうしたんですか白井さんあれティーナさんまで」

「見てればわかるよ初春」

「お兄様とお姉さまが同時に取られるなんて黒子は、黒子は、」

「後で優麻には、お・仕・置・きしなくちゃね」

ドカーン

「まあ嫉妬て訳ね」

「何だ白井行くぞ」

「わかりましたの初春警備委員に連絡を」

「わかりました」

「あとお姉さま手出しは、無用ですので」

銀行前

「はははいくら学園都市といっても警備が甘いぜ」

「追いさっさといくぞ」

「風紀委員ですの」

「何ですかお前ら中学生のぐらいのガキに用は、無いぜ」

「そうゆう台詞は、死亡フラグですの」シュ

「があ鉄が足に」ガチャ

「一人目完了ですの」

「こいつらは、風紀委員最強コンビ一人は、テレポーターだもう一人は、」

「学園都市最強の氷の使い手絶対零度」カチン

「白井そっちは、終わったか」

「一人逃がしましたのそいつは、なぜかガソリンを持ってましたの」

「まさかここらいったいを燃やす気かすぐに探すぞ」

クレープ屋前

「すごい音ですね」

「あいつらいったいどんな戦いしてるのかしら」

「あのすみません」

「はい」

「ここら辺で子供を見ませんでしたか」

「見てませんけどどうかしたんですか」

「今日見学しに来た子なんですがはぐれてしまって」

「私達でよければ手伝いますけど」

「じゃあ手伝ってもらおうかしら」

銀行付近

「あれあの子かも知れない」

「ねえ君今日見学しに来た子」

「名前は、」

「〇〇です。お姉ちゃんの名前は、」

「私は、佐天涙子速くみんなのところに戻ろう」

「オイお前ちょうどいい人質に」ガ

「ちょっと何するんですかやめてください」

「うるさい黙ってついて来い」

「やめてください」

「うるせえ」ガス

「ちょっとアンタ何やってんの」バチバチ

「てめえは、常盤台の超電磁砲今日は、なんてついてない日だ風紀委員最強コンビに超電磁砲かよ」ダ

「(周りにガソリンまいといて正解だったあの電撃で引火して自爆しろ)」

「逃げるな」

「やだね」ガチャ

「(車に乗りこのまま逃走だ)」

「あれは、美琴あの周りにあるのは、ガソリンまさか」

「レールガンで消し飛ばす」ピン

「やめろ美琴」バサ

「え」ズガン

「（あれは、ガソリンまさかはめられたの優麻私死ぬのかな）」

ズガーン

「ははははまさかあの絶対零度までまきぞいで死んだか」

「だれが死んだって」バサバサ

「お前は、その翼は、なんだ」

「氷の翼かなそして最強の硬度誇る氷の剣」

「だがどうってあの爆発を」

「水流操作して一箇所にガソリンを集め俺らの場所だけ爆破するようにしただだから全部防げたし炎も消せた」

「お前は、氷だけでは、なく水も操れるのか」

「精確には、大気の水そして凍り水の温度や形雪にすることや雨を降らすこと水の性質を変えることも出来るそして氷の翼を使えば風だって起こせるぜ」

「優麻私死んだの」

「大丈夫ですよちゃんと生きてますよ美琴」

「優麻守ってくれたの」

「ああもちろん幼馴染として」

「むー」

「ああ膨れるなかわいい美琴」ナデナデ

「／／／／」

「さて銀行強盗」

「化け物が」

「違うな俺は、不可能を可能にする男だ」

「氷の槍の雨」

「がは」ブスブス

「終わりだ銀行強盗」

氷の翼と氷の剣（後書き）

長かった。

幻想殺し（前書き）

頑張ります。

幻想殺し

「よし全部終わったから美琴に話があるんだけど」
上条優麻は、今回の騒動の犯人を捕まえ報告書を書き終えた。
「久しぶりに兄貴にあって見ないか」
「うん」
「じゃあ白井そうゆうことだから後は、任せた」
「「「優麻（（上条さん））」」」
「私も優麻のお兄さんに会いたい」
「いやたぶん不良にナンパされたら必ず現れると思うよ。」
「どうして」
「それは、もちろんトラブルメーカーだから」
「まあまずナンパにあってみろ俺は、そこで見てるから」
「まあ大丈夫だ触れられる前にそいつらを凍らすしすぐ兄貴が来るから」
５分後
「ねえ君たちかわいいいね僕達と遊ばない」

「（こいつらうざいわね電撃でころしてやりたいわ）」

「（落ち着いてくださいあれ誰か来ましたよ）」

「おいお前達はぐれちゃだめだろ」

「アンタが上条当麻」

「ああそうだけど」

上条当麻は、不良たちの間に入っていき自分の名前が知られてることに驚いた

「じゃあもうやっちゃて優麻」ピキン

「おお兄貴本当にナンパされてる女の子がいると出てくるんだな」

「えええ優麻どうしてここに」

「どうしてってもちろん兄貴に会うためだけど」

「本当に来たよ上条さんのゆうとうりだね」

「どうゆうことだ」

「いや優麻がね女の子がナンパされてれば兄貴は、必ず現れるて」

「ええわざとナンパされてたの」

「いや兄貴呼び出すには、これが一番じゃん」

「で何のようだ優麻」

「美琴が合いたいてゆうから」

「美琴ああ美鈴さんの娘さんか」

「やあ久しぶり当麻お兄ちゃん」

「あれお前があの優麻にべったりだった美琴ちゃんか」

「だだ誰がこいつ何かとべったりよ」

「ああ今は、まだ反抗期のガキなわけか」

「誰がガキだー」バチバチ

パリーン

「何すんだよ」

「アンタなんで私の能力が効かないのよ」

「ああ俺には、異能の力なら何でも打ち消す幻想殺してゆうのがあるから」

「へー面白そうな能力ねちょっと勝負しなさい」

「だったら優麻とやればお前も優麻とやったほうがいいだろ」

「ちょっと待ってなぜ俺が美琴の相手しなきゃなんないんだ」

「そうねじゃあ早速」　バチバチ

「バカくそ兄貴あんたのせいで俺が不幸にしかたないここは、逃げるが勝ちだ」

「逃げるなー」　バチバチ

幻想殺し（後書き）

疲れた。

河原の戦い（前書き）

遅れてすみません

河原の戦い

「だーやめろ」

「まちなさい」　バチバチ

「町中で能力を使うな」

「私の相手しろ」

「わかったやってやるよ」

「ふんやっとやる気になったのね」

「ああお前をほっとくとスキルアウトに八つ当たりしそうだしな」

「いいじゃない別に」

「良くねぇだろスキルアウトだろうがお前に電撃浴びさせられるのは、かわいそうだろ」

「まぁじゃあさっさと決闘しにいくわよ」

「はいはい」

１０分後河原

「じゃあさっさとはじめようぜ」

「いわれなくても」バチバチ

「おっと」キュイン

優麻は、左手をかざして電撃を飲み込んだ

「アンタも当麻と同じ力持ってるの」

「いや俺のは、幻想創造だ異能の力を飲み込みその能力を解析して相手の能力に干渉して能力を封じたりその能力を自分に使えるようにしたりできるまあ異能といっても超能力じゃないとその力は、使えないけどまあ使えるのは、四つまでかなそして左手で触れれば解析しなくとも能力奪えるし封じられる。ああこれは、演算じゃないイメージだ頭の中でイメージして使う」

「絶対零度もそうだけどアンタの力チート過ぎない」

「俺は、そんなつもりは、ないけどなよしとった」パチ

美琴の手をとった

「へアンタずるくない」

「さあ参ったするか」拳に力をいれる

「ひあ」うるうる

「はー参った」

「へちょっと」

「だってびびってるしお前の小動物見たいな顔も見れたしな」

「ふふふざけるなーー／／／／／」バチバチ

「うわーもう帰るぞ」

「ちょっと待ちなさい」

「もう勝負は、ついただろ」

「私の全然満足してない」

「くそ不幸だーー」

３時間後常盤台寮

「たくあのやろう今度あったら」

「お兄様と何かあったのですか」

「すぅーすぅー」

「あら今日は、抱き枕なしでねるんですの」

「えへへすぅーすぅー」

河原の戦い（後書き）

頑張ります

虚空爆破事件（前書き）

頑張ります

虚空爆破事件

固法「ここ一週間で大きな変化を表した虚空爆破事件ですが負傷者は、風紀委員で一般者の被害は、なししかしここ最近では、威力も大きくなりぬいぐるみなど子供に渡し爆発させたりなどどんどん悪化してきています。なので風紀委員や警備委員は、協力し合い速やかに解決しましょう」

警備委員「では、解散」

優麻「しかしこの事件は、ひどいな」

白井「いまだに何のヒントもつかめてませんの」

優麻「まあ明日は、俺も休みだけどわんしょは、持って行くか」

白井「はーいいですはね私は、仕事ですの」

優麻「まぁ頑張れよ白井」

白井「はいですの」

美琴ＳＩＤＥファミレス

初春「御坂さん明日一緒にセブンミストに買い物に行きませんか」

佐天「そうですよ行きましょ御坂さん」

美琴「そうねぇティーナさんも一緒に行く」

ティーナ「じゃあ明日は、１０時に集合ね」

当麻ＳＩＤＥ
当麻「このチラシは、これは、セブンミストで一個８０円の卵がしかし一人一個か」携帯
優麻
明日休みだから兄貴は、暇か

当麻
明日１０時の特売の手伝いを頼みたい

優麻
わかった

次の日当麻&優麻ＳＩＤＥ寮
優麻「おーい兄貴」

土御門「にゃかみやんの弟おはようだにゃー」

優麻「土御門さんおはようございます兄貴まだ寝てるんですか」

土御門「これはかぎかかってないにゃー」

優麻「本当ですか」がちゃ

優麻「おーい兄貴」

当麻「おはよう優麻」

優麻「早く行こうぜ１０時になるぞ」

当麻「まずい早く行くぞ」ダッ

優麻「兄貴あんまり早く走るなころｂ」ガシャン

当麻「不幸だ」

土御門「本当にかみやんの不幸は、飽きないにゃー」

美琴ＳＩＤＥセブンミスト前
美琴「あと１０分」

初春「御坂さん」

佐天「遅れてすいません」

ティーナ「あれ御坂さんは、制服なんでか」

美琴「内の学校休日も制服着用なのよねぇ」

初春「じゃあいきましょ」

当麻&優麻ＳＩＤＥセブンミスト途中
優麻「あれ迷子かな」

少女「」きょろきょろ

優麻「君は、迷子かぃ」

少女「うんセブンミストにいこうと思ったんだけど」

当麻「どうした優麻」

優麻「いやこの子が迷子だからセブンミストに連れて行こうかと思って」

少女「ありがとう風紀委員のお兄ちゃん」

当麻「よしいくか」

美琴ＳＩＤＥセブンミスト内
御坂「これは、」

初春「どうしたんですか」

御坂「ねぇこれすごくかわいｋ」

佐天「初春みてこれいまどき小学生でも着ないよね」

初春「たしかに小学生までは、来てましたが」

ティーナ「中学生でこれは、ないよねぇ」

佐天「御坂さん」

御坂「そそそうよね中学生でこれは、ないよね」

ティーナ「はーあれ見に行かない」

佐天「行きましょう」

初春「じゃあ私は、こっち」

御坂「（誰も見ていない大丈夫試着してみるだけだから）」バサ

？？「何やってんだ美琴」

当麻&優麻ＳＩＤＥセブンミスト内
当麻「優麻その子を連れて見てこいよ」

優麻「特売は、いいのか」

当麻「後で携帯で呼ぶから」

少女「ありがとうお兄ちゃん」

そして現在
優麻「何やってんだ美琴」

御坂「ええ優麻何でここに」

少女「お兄ちゃん」

御坂「アンタロリコンだったの」

優麻「ちげえよこの子が迷子になってたから連れてきたんだお前こそ何やってんだ」

御坂「私は、ただ試着を」

優麻「それを」

御坂「へここここれは、そうただ持ってただけ」

優麻「いいじゃん美琴似合いそうじゃん」

御坂「本当に」

優麻「ああお前は、かわいいし何でも似合うじゃねえのか」

御坂「優麻が私にかわいい／／／」

少女「お兄ちゃん携帯なってるよ」

優麻「おおわかったじゃあな美琴」

御坂「／／／／／うん」

美琴ＳＩＤＥ
御坂「ふにゃー」バチバチ

初春「御坂さん沈電してますよ」

御坂「ひゃいにゃに初春さん」

佐天「どうしたんですか」

御坂「それは、その／／／／」

ティーナ「御坂さん落ち着いて」

御坂「私トイレにいってくるは、」

美琴ＳＩＤＥトイレ前
御坂「はー落ち着いた」

??「」

御坂「あれは、ゲコ太じゃないか」

??ＳＩＤＥ
??「今日は、風紀委員が２人もいる」

??「俺は、やってやる」

当麻&優麻ＳＩＤＥ卵売り場
優麻「兄貴お待たせ」

当麻「おおやっときたか」

少女「お兄ちゃん私もいるから３個買えるね」

優麻「兄貴珍しく不幸じゃねえな」

当麻「どうせ後からドンと来るじゃあ買うか」

店員「ありがとうございました」

優麻「兄貴俺ちょっとトイレいってくるからその子よろしく」

当麻「ああ任せとけ」

優麻「じゃあ」

白井ＳＩＤＥ
白井「この事件何か引っかかります」
固法「まあ被害者が全員風紀委員だからかな」
白井「もしかしたら固法先輩初春は、」
固法「休みよどうかしたの」
白井「これは、もしかしたらこれは、風紀委員をねらっていますの」
固法「重力の異常な反応がセブンミストに」
白井「やっぱり」
固法「初春さんに連絡を」
白井「（初春無事でいてください）」
美琴ＳＩＤＥ
初春「白井さんから電話」カチ
「よかったですの初春セブンミストにいますの」
「そうですけど」

「よく聞いてくださいそこに爆弾仕掛けられてますの」

「へ」

「それかｒ」プチ

初春「よく聞いてくださいここに爆弾が仕掛けられました。御坂さん佐天さんティーナさん非難に協力してください」

当麻ＳＩＤＥ
「電気系統の故障が起きました皆さん一時的に皆さん非難してください」

当麻「大丈夫かな優麻まあさっさとここを出よう」

当麻「あれぁの子は、」

白井ＳＩＤＥ
白井「切られましたの」

固法「優麻くんに電話を」

白井「はいですの」

優麻ＳＩＤＥ
優麻「なんだ騒がしいな」

優麻「うん電話」ガチャ

「お兄様大変ですのセブンミストに爆弾が仕掛けられましたの」

「何だって」
「それだけでは、ありませんねらいは、風紀委員ですの」
「俺か」
「初春もですの」
「お兄様どうかみんなをたすけてくださいまし」
「わかった」プチ
当麻ＳＩＤＥ
当麻「おい美琴女の子見なかったか」
御坂「へ見てないわよもしかしてあの中にまだいるの」
当麻「わからねえ」
御坂「」ダッ
当麻「おい」
初春ＳＩＤＥ
初春「非難完了あとは、電話」ガチャ
「初春あなたすぐそこから逃げなさいターゲットあなたですの」プチ
少女「お姉ちゃんこれさきめがねかけた人から」ホイ

ぬいぐるみ「」ぐにゃ

当麻「あれは」

美琴「爆弾が二個当麻お兄ちゃん片方お願い」

初春「これは、爆弾」ポイ
爆弾二個を両サイドに投げた

御坂「（レールガンで爆弾ごと）」ポロ
御坂は、コインを落とした同時に当麻は、後ろ振り向く

当麻「美琴」
そう絶体絶命のピンチだ当麻が片方防いでももう片方がしかし

パリーン

目の前に氷の壁ができて爆発を防いだ

優麻「大丈夫かみんな」

当麻「がちで危なかった」

御坂「こしぬけちゃった」

その後御坂が犯人を逮捕して事件は、終わった。

虚空爆破事件（後書き）

長かった

謎（前書き）

すみません学校のテストや補修などで忙しくて投稿できませんでした。

謎

優麻SIDE放課後
優麻「やっと期末試験終わった」
佐天「あれは、地獄です。」
ティーナ「そういえば初春は」
佐天「今日は、熱で休みだそうです」
ティーナ「じゃあ後でお見舞いに行く佐天」
佐天「はい上条さんは、どうします?」
優麻「まあ今日は、風紀委員で忙しいから俺は、遠慮しておくよ」
佐天「そうですか」
ティーナ「あれあの子たちは、」

美琴SIDE放課後
白井「うーん」
御坂「どうかしたの黒子」
白井「お姉さまが昨日捕まえた犯人虚空爆破事件を起こした人で正

しいのでしょうか？」
御坂「そうだけど」
白井「実は、その容疑者の能力は、レベル２判定となっていますの」
御坂「うそあれは、明らかにレベル４クラスの破壊力だったわよ」
白井「ええですからつまり」
白井「どうしてでしょう」
御坂「まああの店で冷たいものを買って少し頭を冷やしましょう」
そういって御坂達は、その店でカキ氷買った
？？「御坂さん」
優麻＆美琴ＳＩＤＥ
優麻「あれは、美琴か？」
ティーナ「そうね」
二人は、こんな会話してたが一人は、
佐天「御坂さん」
御坂「あれ佐天さんに優麻にティーナさん」
御坂達に会い優麻達も同じ物を買った
優麻「それにしてもあの事件がレベル２が起こしたとは、思えねぇな」

白井「しかし犯人は、確かに量子変速という能力を持ってますの」

佐天「あの噂なんですけど」

全員「幻想御手」

佐天「はい学園都市の都市伝説になっています」

優麻「都市伝説ね」

佐天「でも実際にあった都市伝説もあるんですよ」

御坂「例えば」

佐天「どんなの能力も効かない能力者とか」

優麻「兄貴のことかよし佐天もう少し詳しく教えてくれ」

その後佐天に詳しく教えてもらいネットでの書き込みを探し御坂にお願いしてレベルアッパーを手に入れられる場所で交渉おこなってもらうことになった。

謎（後書き）

次回御坂美琴の交渉途中にあの男が現われめちゃくちゃに

キャラ紹介

上条優麻　　能力　水分操作（変更）　幻想創造
詳細
兄のフラグ体質を受け継ぎそして不幸体質しかし原石の能力と超能力２つの能力を持つ

水分操作
詳細
水分を含むすべての物質を操作可能そして体の中の負のエネルギーを使い凍らすことも可能そしてその負のエネルギーを使った冷凍光線が必殺の武器威力はレールガンと同等速さは、光速である。そして水分操作は、水の性質を変えることができるしかし同時に２つの性質までしか変えられない。

幻想創造
詳細
異能の力を飲み込みその能力を解析して相手の能力に干渉して能力を封じたりその能力を自分に使えるようにしたりできる異能といっても超能力じゃないとその力は、使えない使えるのは、四つまでそして左手でその人に触れれば解析しなくとも能力奪えるし封じられる。そして演算ではなくイメージだ頭の中でイメージして使う幻想創造で使う能力は、３０分間しか使えないそして次使うまで３時間かかる。

お節介（前書き）

がんばります

お節介

優麻ＳＩＤＥファミレス
白井「しかしお姉さまに任してよかったのでしょうか」
優麻「まあ俺達は、風紀委員で顔知られてるし美琴に頼むしかないでしょ」
白井「まあ幻想御手を手に入れれば後は、どうとでもなりますしね」
優麻「ただ兄貴が来ないことを願うか」
優麻＆美琴ＳＩＤＥ
御坂「私どうしても能力がほしくてだめですか」
Ａ君「だめだめ俺達だってただで手に入れたわけじゃないし」
御坂「お金ならいくらでも出しますから」
Ｂ君「子供には、まだだめだ」
白井「あれ大丈夫でしょうか」
優麻「美琴の怒りがあれは、まずいかも」
御坂「私ぜんぜん子供じゃないです」
Ａ君「（あれは、よく見れば常盤台いい金ずるだ）」

A君「しょうがないじゃあいくら出せる」

??「おいおいここは，飯食う場所だぞ女の子からお金をたかるな」

全員「え」

当麻SIDE
当麻「明日から夏休みなのに特に予定は、なしでほぼ毎日補修か」

当麻「不幸だー」
そうして当麻は、今夜は、やけ食いだといいファミレスに入りある女の子を見つけたそうしてその子を助けようと思ったら

優麻「兄貴なぜこのタイミングで出て組んだ」

御坂「そうよアンタ空気読めなすぎ」

当麻「えあのそのおいてめぇさっさっとここから出てけさもないとぶっ飛ばすぞ」

優麻「おい兄貴2人だけじゃねぇぞ」
見てみると8人ほどトイレから出てきた

当麻「集団でトイレ行くのは、女の子だけでは、」

A君「ようお前俺達をぶっ飛ばすんだっけ」

当麻「不幸だー」
当麻は、にげた

優麻「よし白井ここの支払いは、任せた美琴力ずくで奪うぞ」

御坂「うん」

こうして俺達の夏休みの幕が上がった

お節介（後書き）

次回魔術サイドに入ります

７月１９日

優麻＆当麻＆美琴ＳＩＤＥ７月１９日
優麻「おいお前ら幻想御手を今も持ってるか」
Ａ君「うるせえてめぇら全員グル何だろ情報を引き出そうと俺らに近づいたんだろそんなやつに教えるか」
優麻「そうか」
優麻は、直径３センチくらいの水の玉をつくりそれを打ち出し全員に当てた
優麻「これは、大気中の水分を集め銃弾の形を形成しそれを通常の銃弾の速さで当てたのさ性質をもっと硬くすればライフルと同じぐらいの威力なるし速さもあがるぜ今のは、プラスチック弾の威力かな」
Ｃ君「てめぇ高位能力者かいいぜ俺らだってレベル２の力になったんだ相手してやる」
優麻「おいおいこっちは、レベル５がいるんだ無駄なことをしないほうがいいぞ」
Ｂ君「行くぞてめぇら」
優麻「はー」
優麻は、その後全員を凍らせ兄貴にやつあたりにいった
優麻「美琴レールガンだ」

御坂は、レールガンを当麻に打ち出した

御坂「まったくアンタのせいで大事な情報逃がしたじゃない」

優麻「まったくだ」

当麻「それにしても美琴のあの演技は、寒気がしたな」

優麻「ああそれは、わかるわあれは、一生のトラウマになる」

御坂「アンタ達」
よくみると御坂が帯電してるのがわかった

当麻「美琴さん落ち着いて」

御坂「私の全力を食らえ」
その日近くの家に停電が起きたらしい

当麻&優麻ＳＩＤＥ
優麻「俺今日は、兄貴の家に行くは、」

当麻「なんで」

優麻「兄貴の家は、停電が起き冷蔵庫およびエアコンが使えないこれらを俺の能力で解決してやろうという兄思いの弟の行為です」
その日当麻の不幸が優麻によって回避されたがもうひとつの不幸は、避けられなっかた。

7月19日（後書き）

すいません次回が魔術サイドです

禁書目録（前書き）

がんばります

当麻＆優麻ＳＩＤＥ

優麻「おい起きろ兄貴補修があるんだろ」

当麻「うーん優麻おはよう」

優麻「飯は、作ったから」

当麻「お前は、本当にその能力といい家事のできまえといいすげえな」

優麻は、当麻がおきる前に掃除や料理を終わらしていた

優麻「朝は、味噌汁・おひたし・焼き魚が基本だろ」

当麻「洗濯物は、干したのか」

優麻「ああ今干す」

優麻が窓を開けたとき真っ白な修道女がいることに気づいた

？？「お腹へった」

優麻「はー兄貴の不幸をなめていた」

当麻「どうした優麻ってなんで家にシスターさんが」

？？「お腹へったお腹へった」

優麻「兄貴俺のキャリアから言うとだなこれは、うん不幸だ」

当麻「まあ飯食うか」

？？「こんなにおいしい料理は、初めて食べたんだよ」

二人は、こんなに食べるシスターさんに驚かされた

？？「まず自己紹介がまだだったよね私はね禁書目録ていうんだよ」

優麻「偽名だな」

当麻「てか学園都市の人間なのか」

イン「学園都市？」

優麻「（妙だな学園都市を知らずにここにいるのは、）」

当麻「で何でベランダに干されてたんだ」

イン「干されたんじゃなくて落ちたんだよ追い詰められて屋上から飛び降りたんだ」

優麻「（追われていたこの子は、いったいそして禁書目録このワード禁書）」

イン「私は、禁書目録だから私の持っている10万3000冊の魔道書が連中の狙いだと思う」

優麻「（魔道書？この子は、どこにそんな数の本を持っているんだ）」

当麻「連中」

イン「魔術結社だよ」

当麻「はぁ魔術」

優麻「兄貴ついてきてるか」

当麻「魔術ねぇー」

イン「信じてないねぇ君」

優麻「まぁ俺君に聞きたいことがある俺の能力は、さあそういう異能の力を解析したりするけど君からは感じないだけどその修道服から超能力とは、まったく違う力を感知したんだけどそれが魔術なのか？」

イン「歩く教会てゆう魔術で作ってある絶対防御みたいなもの」

優麻「ちょっと触れるけどいいか」キュイン

イン「あれ教会が力を失っている」

優麻「ああもう解析したから返すよ」

イン「あれ元に戻った」

優麻「（解析したからわかったけどこの力は、超能力なんかより少し複雑そして魔術があるのもわかったけど禁書目録まだこのワードがひっかかる）」

当麻「俺には幻想殺してゆう異能の力なら打ち消す力があるさっき
絶対防御っていったよなちょっとほんとかためしていいか」

イン「どうぞ私の歩く教会は、最強何だよ」

そして当麻により破壊されインデックスの泣き声と当麻の叫び声が
1時間続いたという

禁書目録（後書き）

次回は、地獄の底まで

地獄の底まで（前書き）

今まで一回も感想をもらってないのでこの小説が面白いか面白くないのか不安なのです誰か面白いか面白くないの感想に書いて教えてください。

地獄の底まで

当麻&優麻ＳＩＤＥ
当麻「頭が無茶苦茶痛い」
イン「当麻は、最低かも」
優麻「まあまあ」
Ｐｒｒｒｒｒｒｒｒ
優麻「あれ俺か」
優麻「もしもし」
「白井ですのお兄様至急水穂機構病院にきてくださいまし」
優麻「病院？」
「この間爆破事件を起こした容疑者が倒れました」
優麻「わかった今からいくじゃあな」
当麻「どうしたんだ」
優麻「仕事が入った」
当麻「そうか俺も補修行かないとなインデックスは、どうする」

イン「私は、行くよここにいると敵がいつ来るかわからないしあとごはんありがとね」がちゃ

当麻「ちょっと待てよ危ない目に遭うってわかっててお前を外になんか放り出せねーだろ」

イン「じゃあ私と一緒に地獄の底までついてきてくれる？」

当麻「え」

イン「わかったじゃあね」
インデックスは、そのまま行ってしまった帽子を置いて

優麻「兄貴俺も行くから後もうひとつ地獄の底までついていくのでは、なく地獄の底から引き上げてやれよ兄貴の右手は、きっとみんなを救うためにあるんだから」
優麻は、思ったきっと兄貴ならインデックスを救えるだろうと

地獄の底まで（後書き）

次回優麻の科学側と当麻の魔術側の視点で進んでいきます

木山春生（前書き）

久しぶりです。

木山春生

優麻ＳＩＤＥ
上条当麻と別れ優麻は呼ばれた病院へ向かったそしてそこには、寝ている美琴とキスをしようとする白井を見つけた。

優麻「（アイツらそうゆう関係なのか）」

御坂「あれ優麻って黒子何してんの」
御坂は、キスされる前に起きすぐさま立ち白井キスを避けた結果転んだ

白井「痛いですの」

？？「君達が担当の風紀委員かな」

優麻＆白井「はい（ですの）」

？？「待たせたねひととおりデータ収集は完了した」

白井「それで昏睡状態の学生達は」

？？「私は、医者じゃないから治すことができないこうなった原因を究明するのが仕事だからね」

？？「それにしても暑い」

優麻「あのそんなに暑いなら気温を下げることならできますが」

??「ありがたい」
優麻「じゃあやります」
優麻は、水分をいろんなところから集めその塊を霧状にして回りに撒いた
??「君は、噂の水分操作かね」
優麻「あのどうして」
??「君は、学園都市の第2位の能力と少し似ているとゆうことで研究者は誰もが知っていると思うが」
優麻「はぁ」
??「自己紹介がまだったたね私は木山春生だ」
御坂「御坂美琴です」
白井「白井黒子です」
優麻「上条優麻です」
木山「よろしく」
白井「あの少しお聞きしたいことが」
木山「何かね」
木山「レベルアッパー」

白井「はいネット上で広まっている噂ですけど」

木山「そのはなしは、後で聞こう冷房のある部屋で」

優麻「あのすいません少し気になることがあるので白井まかせた」

優麻は気になっていたそうこの街は常に監視されているのに侵入者（魔術師）の存在に気づかない何ておかしいと

木山春生（後書き）

がんばります。

PDF小説ネット発足にあたって

　PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4410s/

とある科学と魔術の不幸な弟

2011年8月29日19時01分発行